

## 1. 清水会長 2023年～2024年度運営方針

6月の社員総会で理事が改選され、その後の互選により会長に選出されました。微力ではございますが、業界の発展のため、会員企業の皆様の発展のため力を尽くして参りたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

7月の理事会を経て、2023～2024年度の方針を策定いたしましたのでご確認ください。

### 【基本的な考え方】

1. JADCA 設立時の思いとこれまでに関わってきた方々の思いを尊重し、引き継いでいく。
2. これまでやってきたことを大事にしつつ、新しいことにも取り組む。

### 【JADCA の役割】

1. 業界の健全な発展
  2. 会員企業の発展
  3. 業界団体としての JADCA の発展
- 三位一体となって発展していく。

### 【業界の発展について】

業界の発展とは、市場が広がることだと考えています。市場を広げるような活動を進めて参ります。

市場が広がると参入企業が増えて、ライバルが増えることになるかもしれませんが、広がった市場を JADCA で独占しようとは思いません。そのような小さな考えでは、市場を広げるような活動はできないと思っています。たとえライバルが増えることになったとしても、市場が広がることが大事だと思っています。

### 【会員企業の発展について】

会員企業の発展はそれぞれの会社ごとにいろいろな考えがあると思いますが、一番シンプルに考えると会員企業の仕事が増えることです。そのためには、ダクト清掃の市場が広がることが必要ですが、それだけではなく、JADCA 会員の優位性があること、有用な情報が入手できることなども効果があると思います。

会員企業が JADCA に対してどんなことを望んでいるかを知り、会員企業の発展につながるような事業を進めて参ります。

### 【JADCA の発展について】

業界団体として JADCA が発展するとは、いろいろなことが考えられますが、まずは会員数が増えることです。会員数 200 社を目指します。これは、これまでと同じやり方では不可能な数字です。新しいチャレンジとして、これまでとは違うやり方で進めたいと考えています。

JADCA が影響力を持つためには、現段階では「それなりの会員数」が必要だと思っています。まずは数を集めて、それを力に変えていきたいと考えています。

【新しいチャレンジについて】

動きの速い現代社会で同じことばかりを続けていけば、いずれ尻すぼみになってしまいます。そうならないように、新しいチャレンジを続けて参ります。  
前例のない新しいチャレンジは、「迷ったら Go!」の考え方で進めて参ります。何が正解か分からない新しいチャレンジは、やってみないと結果が分からないからです。

【運営に中心的に関わる理事について】

下記の役職を設け、中心的に協会運営を進めます。

会長	JADCA の代表	清水 晋
副会長	必要なときに会長の代理となる	末光 眞二 今井 昭彦
専務理事	運営の中心になる	花木 俊介 高橋 耕一
常務理事	運営に中心的に関わる	中村 一午 大庭 孝仁 佐々木 良信

【委員会について】

下記の委員会を設け、委員会が中心となって事業を進めます。

①学識者等に参加してもらう外部委員会

名称	内容	担当理事
厨房委員会	● 厨房排気ダクト清掃の市場拡大	大庭 孝仁
評価認定委員会	● 技術評価制度の運営 ● 技術評価制度の普及	佐々木 良信
環境経営委員会	● 環境経営システム認証制度の運営	中村 一午
清浄度評価委員会	● 汚染評価等の技術的研究	—

②事業を進める内部委員会

名称	内容	委員長
事業委員会	● 協会の具体的事業に関する事項を担当する。 ※技術委員会、BM 委員会などを含む	花木 俊介
総務委員会	● 協会の運営に関する事項を担当する。 ※総務委員会、広報委員会などを含む	高橋 耕一
政策委員会	● 政界・行政・関連団体への働きかけによって、空調システムクリーニングの市場拡大と協会の地位向上を狙う。	小川 明彦

## 2. 研修・講習のご案内

集合研修については、新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン研修とさせていただきます。

### (1) 厨房排気設備診断士養成研修

最近、焼肉店を始め厨房ダクト火災が依然として頻発しているが、厨房排気ダクトの点検・清掃管理が十分に実施されないことが火災延焼の要因であるケースが多いことを鑑み、厨房排気設備の汚染診断並びにクリーニング及び清掃評価診断ができる専門的な知識と技術を兼ね備えた診断士を養成する。受講料：会員 ¥35,000（税込）一般 ¥45,000（税込）

日程	開催方法
2023年10月19日(木)～20日(金)	オンライン研修（ZOOM）利用

### (2) 空調システム診断士養成研修

JADCAは、カビ、細菌等の微生物や新型インフルエンザの出現・新型コロナウイルス感染症予防対策等室内空気環境の衛生管理がますます重要となっていることを鑑み、空調システム全体の健康状態を判断する診断士を養成する。受講料：会員 ¥35,000（税込）一般 ¥45,000（税込）

日程	開催方法
2023年10月26日(木)～27日(金)	オンライン研修（ZOOM）利用

### (3) 空気調和用ダクト清掃作業従事者研修

この研修会は、厚生労働大臣より研修実施団体として登録を受けた、一般社団法人日本空調システムクリーニング協会が開催するものです。受講対象者は初めて従事者研修を受講される方のための「1年目コース」と2回目以降の方を対象とした「2年目以降コース」に分けて研修を行います。

受講料：10,285円（税込）

対象者	日時	開催方法
「1年目コース」 初めて研修を受講する方の研修	2024年1月17日（水）	オンライン研修 （ZOOM）利用
「2年目以降コース」 2回目以降受講者対象の研修	2023年10月12日（水） 2024年2月21日（水）	

### 3. 活動報告 7月～9月

日付	内容	会場・開催形式
7月28日(木)	空調システム診断士更新研修	オンライン研修 (ZOOM)
8月24日(木) 8月25日(金)	JADCA スタンダード研修 厨房版 JADCA スタンダード研修 空調版	オンライン研修 (ZOOM)
9月11日(月)	九州支部 支部会議 勉強会 (池田塾)	アクロス福岡 会議室
9月14日(木)	空気調和用ダクト清掃作業 従事者1年目研修	オンライン研修 (ZOOM)
9月15日(金)	厨房排気設備診断士更新研修	オンライン研修 (ZOOM)
9月19日(火)	厨房委員会	浅草文化観光センター
9月29日(金)	環境経営委員会	浅草文化観光センター



9月11日(月)アクロス福岡  
JADCA九州支部会員有志にてJADCAの元講師であり、元国立保健医療科学院建築衛生部長 池田耕一先生に室内環境全般に関わる知識とIAQ向上の改善策などを学び、業容拡大に向けたヒントを得る場となることを目的とした勉強会(池田塾)が開催されました。

### 4. 活動予定 10月～12月

日付	内容	会場・開催形式
10月4日(火)	厨房排気設備診断士更新研修	オンライン研修 (ZOOM)
10月11日(水)	北陸東海支部ゴルフコンペ	多治見カントリークラブ

10月12日(木)	空気調和用 ダクト清掃従事者研修 2年目以降研修	オンライン研修 (ZOOM)
10月19日(木) 10月20日(金)	厨房排気設備診断士養成研修	オンライン研修 (ZOOM)
10月24日(火)	東西関東支部ゴルフコンペ	KOSHIGAYA ゴルフクラブ
10月26日(木) 10月27日(金)	空調システム診断士養成研修	オンライン研修 (ZOOM)
11月9日(木) 11月12日(金)	海外技術交流研修旅行	台湾 (高雄・台北)
12月21日(木)	評価認定委員会	JADCA 会議室 (新橋)

## JADCA 臨時社員総会の予告

2024年1月18日(木)

アートホテル日暮里ラングウッド

14:00～16:00 臨時社員総会

16:30～18:30 賀詞交歓会



## 空調の話 空気の話

### 完全燃焼するだけでは不完全!?

都市ガスやLPガスなどの燃料ガスは、電気とともに私たちの暮らしには欠かすことのできないエネルギーの一つですが、その「ガス」は昔から「ちょっと怖いもの」扱いされてきました。万が一ガスが漏れると爆発するかもしれない。そしてもう一つ、ガスがうまく燃えないと中毒を起こすかもしれない。このような不安が「ちょっと怖いもの」と印象付けているようです。

ガスを燃すには空気中の酸素 ( $O_2$ ) が使われます。室内でガス器具を使用すると、空気中の酸素がだんだん減ってきます。普通、空気中の酸素濃度は21%ですが、19%を切るあたりからガス器具でガスをうまく燃せなくなってきます（人間はまだ大丈夫です）。そこで、ガスが燃えた後に出てくる燃焼排ガスを換気扇や煙突で室外に出し、新鮮な空気を外から室内に取り込む「換気」が必要になってきます。

酸素 ( $O_2$ ) が十分に足りている状態でガスが燃えると二酸化炭素 ( $CO_2$ ) が出てきますが、この「換気」がうまくできず酸素 ( $O_2$ ) が不足した状態でガスが燃えると、二酸化炭素 ( $CO_2$ ) まで反応が進まず一酸化炭素 ( $CO$ ) が発生します。人間が二酸化炭素 ( $CO_2$ ) を吸い込んでも中毒は起きませんが、一酸化炭素 ( $CO$ ) を吸い込むと量が少ないうちは頭痛程度で済みますが、吸い込む量が増えてくると痙攣や失神などの症状が現れ、さらに大量の一酸化炭素 ( $CO$ ) を吸い込むと死にいたりします。

ガスの不完全燃焼で発生する一酸化炭素 ( $CO$ ) による中毒事故のうち、死亡事故となった件数をみてみましょう。30年前は1年間に22件程度起きていましたが、直近5年間の平均では0.4件と大幅に減っています。この背景には、不完全燃焼を防ぐ安全装置が多く、多くのガス器具に取り付けられたことや、屋外設置型のガス器具が普及してきたことなどがあります。

ちなみにガス漏れによる爆発死亡事故については、30年前は年間12件程度、直近5年間の平均では0.4件とこちらも少なくなっています。

もはや、ガスは「ちょっと怖いもの」と思わせる要因は払拭されたと言ってよいでしょう。

不完全燃焼はうまく防げるようになってきたのですが、今や完全燃焼しただけでは不十分な時代になりました。人体に対しては毒性がない二酸化炭素 ( $CO_2$ ) でも、地球にとっては猛毒扱いされるようになってきました。

都市ガスやLPガスの主成分はそれぞれメタン ( $CH_4$ ) とプロパン ( $C_3H_8$ ) です。これらのガスを燃すと炭素 ( $C$ ) が含まれているので、どうしても二酸化炭素 ( $CO_2$ ) が出てきます。燃料ガスの主成分として炭素 ( $C$ ) を含まない、例えば水素 ( $H_2$ ) を使えば二酸化炭素 ( $CO_2$ ) は出てこないのですが、水素 ( $H_2$ ) はメタン ( $CH_4$ ) やプロパン ( $C_3H_8$ ) に比べて発熱量が低く、また、分子が小さいので漏れやすいため、都市ガス導管やボンベを使った従来の輸送方式には不向きです。

そこで今開発が進められているのが「合成メタン」です。1つの二酸化炭素 ( $CO_2$ ) 分子と4つの水素 ( $H_2$ ) 分子を高温高压の環境下で触媒を用いて反応させると、メタン ( $CH_4$ ) 分子が1つ出来上がります。





工場や発電所から本来は大気中に放散される二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を回収します。そして、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーを利用した発電で得られた電力 (発電時に二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を出しません) によって水 (H<sub>2</sub>O) を電気分解し、水素 (H<sub>2</sub>) を取り出します。この水素 (H<sub>2</sub>) と回収された二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を反応させてメタン (CH<sub>4</sub>) を造るのです。こうして得られたメタンが「合成メタン」です。

この合成メタンを燃すと通常メタン (CH<sub>4</sub>) と同様に二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) が出てきますが、本来大気中に放散されるはずの二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を回収して「合成メタン」の原料にしているため、大気中の二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) は増えないということになります。

また、「合成メタン」は、都市ガス導管やガス器具などの既存インフラや設備をそのまま利用できるため社会的コストの抑制が可能であり、効率的な脱炭素化手段として大きなポテンシャルを持っていると言えます。

「合成メタン」の開発戦略では、2030年に利用を開始し、2050年には従来使われているメタン (CH<sub>4</sub>) の9割を「合成メタン」に置き換える計画となっています。

この「燃しても二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を増やさない魔法のガス」が、早く実用化されることを心から期待してやみません。

元トーセツ(株)取締役 JADCA 技術顧問 植木孝

## 事務局 etcetera (エトセトラ)

### 「北海道のローカルな話」

最初に、8月逝去された JADCA 理事 故・山田幸司様（赤門ウィレックス会長）のご冥福をお祈りします。

いつも落ち着いた言葉で語り続けられた方で、いつも穏やかな空気で筋の通った話をされていたことが印象的で、個人的にも頼りにしておりました。回復を願っておりましたが、亡くなられたことが今でも残念です。

さて今年の夏、会員の皆様は如何お過ごしだったでしょうか。北海道でも7~8月は35度前後の猛暑と関東並の湿気が続く“らしからぬ夏”でした。当社ではビルの空調ダクト清掃の現場の他に分譲マンションの高圧洗浄の現場でも「空調服が必需品化」される変化がありました。今9月半ばの北海道は一気に秋の気配が濃くなり、日中は空気が快適である一方、夜は肌寒さを感じる季節となりました。装いは長袖、厚い布団、暖房準備、ボイラー点検等「寒さ対策」を進めつつ、「業務は繁忙期」を頑張りつつ、「秋の食」秋野菜・果物、(サンマ不漁でも)イワシ刺し、蕎麦屋で秋野菜料理や地酒を頂きつつ最後せいろでぐめ、「温泉」、「紅葉」等も楽しみつつ、限られた時間を精一杯動きたくなる季節でもあります。

以下は「夏のはじめ~秋にかけて道内で私が個人的に気に入っている“個人定番”」の紹介ですが、私の場合下記全てに毎年行くのは不可能で「年に数ヶ所、何年かごとに行けたらな」位の頻度で行きます。

①5~8月瀬棚町真駒内川・相沼内川、大雪山系トムラウシ、糠平音更等の釣り（人里離れた綺麗な場所です。）



②7月積丹神威岬近くウニ&岩海苔（最初驚きました。毎年食すのは無理なので数年に一度行く時に。※ここも別の所についてもですが、故山田理事からは素直な喜びの言葉を頂いた記憶が何度かあります。）



③8月石狩のライジングサンフェスティバル（音楽もそれ以外も天気良い時の気持ち良さと言ったら！）



④大雪高原の紅葉が最高のとき（例年9月下旬ピーク下は10月初旬。稀に雪と紅葉が同時に！）



文責 今井昭彦(所属:株式会社富士クリーン)

## 編集後記

---

協会を通して私自身も沢山の出会いがあり、沢山の学びを頂いてきました。もちろんビジネスにつながる事もあれば、ビジネスには繋がってはいないけれど多くの学びを与えて頂いた方もいらっしゃいます。自身の物差しでは知りえなかった経験を会話の中でも聞くことで学べることは多くあると思います。そんな出会いの場を、JADCAの中で多く作ることで会員企業の皆様に沢山の出会いや学びを提供できればと思っております。

清水新会長の体制となり、これから様々な行動を伴った動きが始まると思います。会員企業の皆様におかれましては、そんな出会いの場へのご参加をお願いできればと思います。

---



### JADCA 事務局

〒105-0004 東京都新橋 1-12-9 新橋プレイス 7階

TEL : 03-6274-6064 FAX : 03-6274-6065

E-mail : [info@jadca.jp](mailto:info@jadca.jp) URL : <http://www.jadca.jp/>